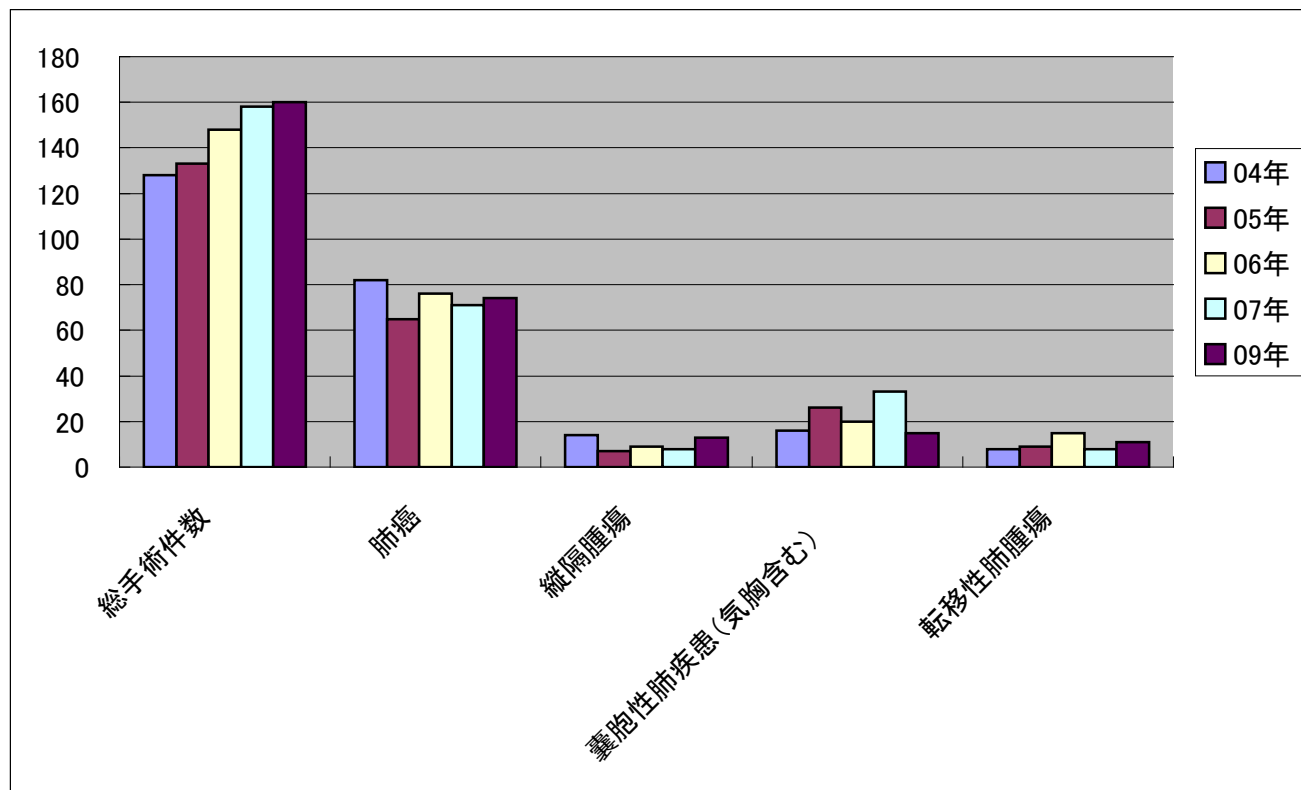


# 呼吸器外科の手術件数の推移

所属:呼吸器外科

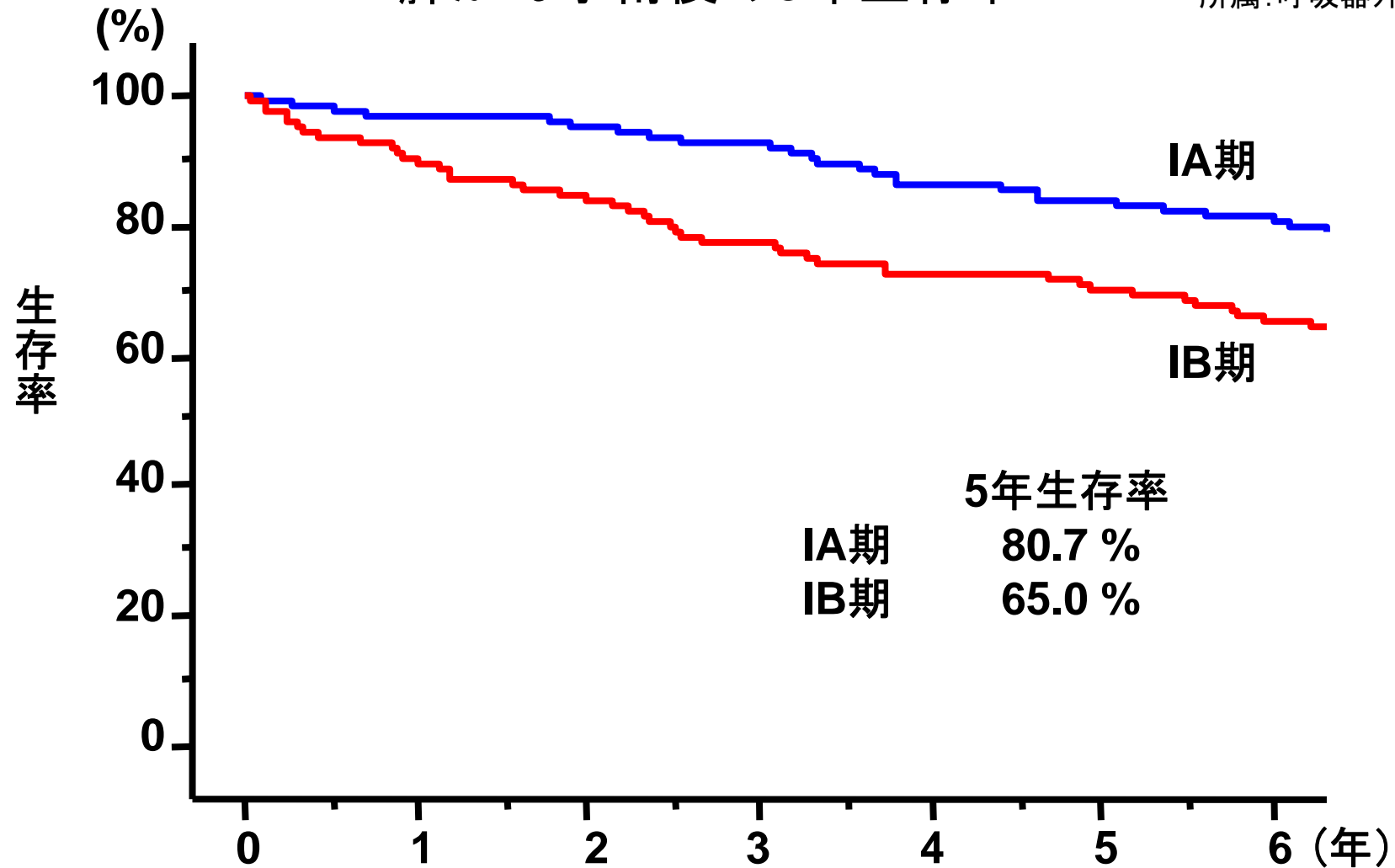
1. 呼吸器外科総手術件数
2. 肺がん総手術件数
3. 縦隔腫瘍手術件数
4. 嚢胞性肺疾患（気胸を含む）手術件数
5. 転移性肺腫瘍手術件数
6. 呼吸器手術後肺炎発症率
7. 肺葉切除後の気管支断端瘻発生率
8. 肺葉切除後の肺瘻発生率



一般に手術件数が病院の手術成績に反映するとされています。当科の手術件数は年々増え、その一方で手術の安全性も高まり、術後肺炎発症率は1%以下、気管支断端瘻（縫合不全）の発生率も1%前後で低率です。手術関連死亡は昨年はゼロでした。当科では疾患の根治性はもとより、安全性にも重点を置いています。肺がんでは手術、化学療法、放射線治療、ステント治療など総合して行う集学的治療が重要です。当院では患者さんごとの会議は呼吸器外科、呼吸器内科、放射線科合同で行い、より良い治療の追求をしています。

# 肺がん手術後の5年生存率

所属:呼吸器外科



肺がんでは、手術後5年を目安にして生存率を算出します(5年生存率)。このグラフはリンパ節転移のない肺がん症例を腫瘍の大きさ(3cm以下がIA期、3.1cm以上がIB期)で分けたグラフです。肺がん手術後5年生存率の全国平均はIA期83.3%、IB期66.4%でほぼ同様の結果です。